

第 15 回日野市ユニバーサルデザインまちづくり 推進協議会 議事録	平成 26 年 09 月 25 日（木） 10:00-11:00 防災情報センター
---------------------------------------	--

■出席者

1. 日野市ユニバーサルデザインまちづくり推進協議会

会長	竹宮 健司	首都大学東京 都市環境学部 建築都市コース 教授
副会長	小根山 裕之	首都大学東京 都市環境学部都市基盤環境コース 教授
委員	有山 一博	日野市聴覚障害者協会
	佐々木 信行（欠席）	ピープルファースト東京
	田辺 邦夫	日野市視覚障害者協会
	谷保 恭造（欠席）	日野市老人クラブ連合会
	早川 裕子	市民サポートセンター日野
	藤井 恵	公募市民
	藤田 博文（欠席）	自立生活センター日野
	大川 稔（代理）	
	井上 敏夫（欠席）	日野市商工会
	大場 主雄	日野市社会福祉協議会
	島 一喜	独立行政法人 都市再生機構

2. 日野市

日野市まちづくり部長	石本 弘一郎
日野市企画部長	渡邊 博朗
日野市健康福祉部長	田倉 芳夫

3. 事務局 日野市まちづくり部都市計画課

岡田正和課長・浅川浩二課長補佐・壁巢哉弥課長補佐・大沢百代主任

■議事

1 報告事項

（1）日野市ユニバーサルデザイン推進条例施行規則について

（2）日野市ユニバーサルデザイン推進功労者表彰実施要綱について

（3）日野市ユニバーサルデザイン推進功労者表彰審査基準について

（4）日野市ユニバーサルデザイン推進功労者表彰募集要領について

2 質疑応答

3 今後の予定

（1）点字付き封筒の推進

（2）点字プリンタの活用

（3）平成 26 年 11 月 市役所職員研修

（4）平成 27 年春頃 次回協議会

■配布資料

- ・資料 1 日野市ユニバーサルデザイン推進条例施行規則
- ・資料 2－1 日野市ユニバーサルデザイン推進功労者表彰実施要綱
- ・資料 2－2（見え消し版）日野市ユニバーサルデザイン推進功労者表彰実施要綱
- ・資料 3－1 日野市ユニバーサルデザイン推進功労者表彰審査基準
- ・資料 3－2（見え消し版）日野市ユニバーサルデザイン推進功労者表彰審査基準
- ・資料 4 日野市ユニバーサルデザイン推進功労者表彰募集要領
- ・資料 5－1 点字付き封筒の推進について、点字プリンタの活用
- ・資料 5－2 （点字版）次第
- ・資料 6 市役所職員研修の実施について
- ・資料 7 名簿

■質疑応答

	【報告事項】 質疑なし
会 長	【意見交換・全体をとおしての質疑応答】 今回は、前回の議論を受けて、実施要領など様々な整備をしていただいた。気づいた点はあるか。
委 員	資料 4 の募集要領の記載内容について、「以下の内容について記載してください」のところで、例えば「貢献度」について、1，2として具体的な内容が書かれているがわかりにくく、応募者がこれを読んで、どのようなことを書いたら良いのか戸惑うと思う。「貢献度」とは日野市民のためにどのくらい役に立っているかだと思う。もっとわかりやすい表現を使った方が応募者に対して良いと思う。 「自発性」のところも、詳細説明にある義務とは何なのかわかりにくい。他市の模倣ではなく、自らの発想に基づいてなどの表現にしたらどうかと思う。
事務局	資料 4 の内容は、今回初めてご提示させていただいた。 前回までにご議論いただいたものを組み込んでおり、「3」の応募方法について新しく設けている。今回ご提示した内容は、資料 4 の募集要領に基づいて、これから募集をかけていく基本的なルールを作ったところである。ご指摘があったので、これから募集をしていく上で、よりわかりやすくするように検討していく。
会 長	我々は、これまで順を追って理解できるが、実際には、応募要領と応募用紙

	が配布されるのか。
事務局	施行規則、実施要綱、基準等の資料一式を提示していく。すべて読み込むのは大変なので、委員のご指摘のとおり検討していく。
委 員	記載例を作ると解決すると思う。
事務局	そのようにする。
副会長	何を書いて良いのか読み取れない。様式の枠の大きさと記載内容が求められていると思うので、枠の大きさのバランスが適切なものを検討してほしい。応募用紙の貢献度をはじめとする（１）から（７）までの項目内容を、もう少し書き込みたいときは広げられるように、どこかに書いておくのが良い。
事務局	枠については、手書きの方よりもエクセルで改行ができ、追記していくものを考えている。文字数については一定の限度をかけて記載量を決めていく。
会 長	場合によっては、手書きの方もいると思うので、手書きでも記入できる量にするとう良い。
委 員	「評価票」についてだが、文章を読むのが苦手な方には現場調査をやるなども必要である。
事務局	場合によっては、改めて時間を設ける。書き方については、改良の余地があるので再検討させていただく。
委 員	応募用紙の推薦について、製品開発は作る側と見る側では視点が違う。製品については、実物を見ることも必要である。模型でも良い。
事務局	応募者と調整する。
委 員	資料２の実施要綱について、自薦、他薦の場合はどのような扱いか。
事務局	前回、前々回でも説明しているとおり、ユニバーサルデザインの普及を目的としており、当事者以外の方からも推薦をいただき、啓発活動の一環としていきたい。本人の同意は必要と考えている。

会 長	本人の同意はどのようになっているのか。
事務局	応募要領にはまだ入れていないので検討する
委 員	他薦の場合は、その関係も必要である。お互いに推薦し合うこともある。
事務局	応募用紙には、推薦される側と推薦者の両方を記入する欄を設けている。 連絡をとって確認していく。
委 員	表彰対象によって、内容が異なると思う。審査項目にあたる（１）から（７） は自由に記入して良いのか。
委 員	審査する側としては、空欄の項目があっても良いということか。
事務局	そのように考えている。
会 長	応募しやすい環境整備が必要である。実際に審査の段階になると、現場調査も 必要であり検討してほしい。自薦・他薦についても整理が必要である。実際に運 用していきながら調整を図っていくこととする。
会 長	他になれば、次第４に移る。
委 員	【今後の予定 職員研修について】 点字による資料作成は、本当に、私たち視覚障害者にとってありがたいことだ と思う。やはり、市からの通知が点字による課名入りだと、都市計画課など、ど この課からの通知かすぐわかる。 今回の、この封筒もそうだ。 今回の協議会も点字で資料を作っていて、事前に見させてもらった。み なさんと同じような状況で参加させていただいて、本当に私としてもフルに会議 に参加できているという感じが持てて、非常にありがたい。 今、係の方がおっしゃったように、点字用プリンタを導入されて、今後、市か らの通知に内容まで点字で送っていただけたら、本当にありがたい。画期的な ことで、おそらく、どこの自治体もまだやっていないことだと思う。 いろいろな点字を、公の文字として認めてほしいという運動は、３０年４０年 前からずっとある。そういうことが、まだなされていない。自治体の通知文が希 望者には点字で送られるようになると、私は非常に画期的で、全国に誇っていい ことだと思う。ぜひ、お願いしたいと思う。

事務局	実は、障害福祉課から数日前に通知が来て、封筒に課名が点字でふってあったので、すぐに障害福祉課の方に電話した。内容はどのようなことですかと聞いたら、同行援護のことで26日までに出してほしいということだった。代筆でも提出できるということで、この後障害福祉課に寄ろうと思っている。恐らく点字をふっていなかったら、私はすぐに対応できなかったと思う。そんな実例もあるので、本当にありがたいと思う。 皆さまのお手元にある点字文書だが、点字プリンタを購入後、作成してみたものである。 日野市中央図書館に視覚障害者の職員がおり、その内容を確認してもらった。すると、「めちゃくちゃ」であると感じてもらった。 その際に点字には、いろいろなルールがあるということを聞いた。今回配布した点字資料は、中央図書館の職員に指摘をもらい、直したものである。内容は、今回の次第の見出しの部分である。 (委員に手渡し読んでもらう。)
委 員	「第15回日野市ユニバーサルデザイン推進協議会次第」 点字というのは、ものすごく細かくマスを開けて文字化するんですね。「ユニバーサルデザイン」がくっついているが、正式には「ユニバーサル」「デザイン」と離して作成する。 「1. 開会 2. 報告事項 3. 質疑応答 4. 今後の予定 5. その他 6. 閉会」これは、満点である。
事務局	このように点字には、ルールがあるということもほとんど知らなかったが、少しずつ勉強して簡単なものについては、点字資料を作成していこうと思っている。 今、六点の会（点字資料を作成する団体）に資料作成を依頼している。そこまでのレベルになるには無理があると思っているが、（最高レベルを）目指して頑張っていこうかと思っている。
委 員	あまり無理されないでいいと思う。点字は結構面倒くさいところがあり、点字技能検定試験もあるが、非常に難しいものだ。 内容がわかるという許容範囲というものがあると思う。大きな資料であれば最寄りの施設に頼んだ方がよい。職員の方が全部やるのは大変だと思う。そこは臨機応変にさせていただいて良いと思う。 例えば「障害福祉課」をパソコンで打つと、「しょうがい」とするが、点字には長音記号があつて、「しょーがい」と打つ。でも、そこは理解できるので、臨

	機応変な対応でいいと思う。点字で通知をいただくということで、その情報がわかり、非常にありがたいと思う。
事務局	目標は高くいうところ。出来る範囲でやっていきたいと思っている。
会 長	ラベル印刷機を活用して、どのようなお知らせが入っているのかがわかるだけでも違うので、そういったものをストックしておいてすぐに使えるようにしておくが良い。 そのほか、研修についてはいかがか。昨年の反省を生かして、テーマを絞って手話、有山委員に講師をお願いするということだが、これは、講習の内容をビデオに撮ったりとか、あとへ繋がるようなことをするのか。
事務局	昨年は車椅子体験と手話講座を行った。2時間で2項目だったので、どちらも中途半端に終わってしまった。今回は集中して行いたい。前回の内容はビデオに記録している。今後役立てていきたいと思っている。今回もビデオ撮影する予定である。
会 長	その他意見はあるか。 事務局から追加はあるか。
委 員	手話体験講座でパンフレットを配布したいと考えている。改めて委員のみなさまにもお渡しする。研修の参加者だけでなく、福祉、行政全体の方に渡したい。手話を普及させ、手話言語法の観点からご理解いただきたい。
会 長	表彰制度の今後について、具体的な説明を求める。
事務局	次回の協議会を2月末から3月初めに開催予定である。それから逆算して、募集の時期や期間を検討中である。募集期間を1か月以上取りたい。今日いただいたご意見をまとめて、12月には募集を開始する予定でいる。その後に、内容を整理し、次回協議会で審査をしていただく。協議会から日野市長に推薦をしていただき、表彰自体は4月になると思う。 日程の詳細は、改めて委員の皆様にはお知らせする。
会 長	無理のないスケジュール立てをしてほしい。 スケジュールがわかれば、各委員も表彰制度が動き始めたことがわかる。
委 員	会議には直接関係ないが、日野市視覚障害者協会の会員からの要望がある。豊

	田駅南口の開発箇所は、視覚障害者にとって非常に歩きづらい。狭くて歩道と車道の区別がなく、柱も多く歩きづらい。側溝に蓋がなく、そこに落ちる人もいる。図書館には職員のほか全盲の人が一人で図書館まで通っているが、大変危険である。公共の図書館までのコースを整備してほしい。 また、南平から中央図書館まで歩いている人もいるので、図書館前で停まるバス路線があれば良いと言っている。 杖歩行の人に歩きやすいよう整備してほしい。
まちづくり部長	豊田駅南口周辺は区画整理中である。将来は6メートル道路になり、側溝もなくなる。以前から道路の位置が変わり、わかりづらいとの指摘がある。中央図書館に行くコースは、情報提供ができるようにしていきたい。平成28年に南口の駅前広場が暫定整備されると、また変わってくるので、連絡体制を作るよう課題としていく。
委 員	希望者を集めて要望を聞いてもらい、歩きやすい環境を考えてほしい。用水に落ちかかった人もいるので対策はできるか。
まちづくり部長	全部は難しいが、限定的にルートを絞りながらできることを考えさせてもらいたい。
会 長	ほかに意見等ないようなら、これをもって閉会とする。